

学校教育経営方針

校長 河邊 利夫

教育方針

みんなが「笑顔でこれて、笑顔ですごせて、笑顔でかえられる」学校

学校教育目標

- ・ 自立 （自ら学び、自ら律する力）
- ・ 寛容 （相手を広く受け入れ、信じ合う力）
- ・ 共生 （共に高め合い思いやる力）

育成を目指す資質・能力

- ・ 自ら進んで学び、考え、的確に判断する力。
- ・ 自分の思いや願いの実現に向けて、自分自身を表現する力。
 - *アサーティブ・コミュニケーション力
(率直さと相互尊重を両立する力)
- ・ 他者の思いや意見を受け入れ、共に歩んでいける力

目指す教職員像（学校教育目標を達成するために）

1. 生徒一人ひとりを徹底して大切にし、より丁寧な教育活動を行う。
2. 教職員が互いの役割と責任を意識し、組織としての協働性をさらに高める。
 - *アサーティブ・コミュニケーションを実践し、率直さと尊重を両立する職員集団を形成する。
3. 家庭・地域・関係機関等との連携を密にし、本校の教育力の向上を目指す。

目指す生徒像

- ・ 自立⇒自ら学ぶ姿勢を持ち、学校・家庭で学習に取り組む生徒。
- ・ 寛容⇒自分の考えを持ったうえで、自他ともに受け入れられる生徒。
- ・ 共生⇒いろいろな考え方の相手と共に高めあえる生徒。

「すべての生徒に“学び”の喜びを味わわせる」

～「学び」の喜びを味わうことで、次の学びの「意欲」につなげる～

「意欲」を高める取組の推進・生きる力の育成

指導の重点

1. 人権教育を基盤に据えた一人ひとりに心の居場所がある「集団づくり」

→何よりも生徒の安心・安全を最優先とした学級経営・学級づくりを基盤に、学級活動や生徒会活動、必要に応じた別室指導等を通して、一人ひとりの状況や思いに応じた支援を行う。生徒が自分の学級や学校を大切に思い、誇りを持てるよう、「いじめを許さない・見過ごさない集団づくり」を推進する。また、アサーティブ・コミュニケーションを取り入れ、率直さと相互尊重を両立した人間関係づくりを進める。

2. UDLや総合育成支援の視点を活かした確かな学力をつける「授業づくり」

→UDLや総合育成支援の視点を授業づくりに生かし、生徒一人ひとりの特性や課題に応じた個別最適な学習を重ねることで、「自ら課題を捉え、主体的に学習に向かう態度が育まれる授業の実現」を目指す。その過程を通して、広い視野と豊かな感性をもち、ウェルビーイングな社会の創造に寄与できる生徒を育成する。

3. 自分の将来をたくましく切り拓くための「きわみプロジェクト(探究活動)」

→生徒一人ひとりが中学校卒業後における自己実現を目指し、自ら課題を設定し探究する学びを通して、これからの社会に対応できる力を育成する。そのため、探究活動を軸に据えた「3学年を見通した系統的なキャリア教育」を推進する。

4. 小中9年間の成長を温かく、時に厳しく見守れる学習指導・生徒指導体制

→生徒指導の実践上の4つの視点を踏まえ、小中9年間を見通した連携のもと、児童生徒一人ひとりの成長に寄り添い、温かく、時には厳しく関わる指導を行う。誰一人取り残さない教育の実現に向け、「小中連携した学習指導・生徒指導体制」を構築する。

5. 保護者・地域の思いを受けとめ、地域ぐるみの教育を推進する

→学校運営協議会(平成30年度設置)を中心に、保護者や地域住民と学校が目標や課題を共有し、連携・協働による「開かれた学校づくり」を推進する。地域の人的・物的資源を生かした教育活動を展開するとともに、学校運営への参画意識を高め、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てる体制の充実を図る。

6. 働き方改革の推進

→一人一人の教職員を徹底的に大切にする学校組織づくりを通して、子どもも教職員も幸せや生きがい、豊かさを実感できるウェルビーイングな学校風土の醸成を図る。そして、教職員が仕事に熱意と誇りを持ち、達成感・充実感・成長感が得られる組織・職場づくりを目指す。

7. GIGAスクール構想の下、ICTの効果的な活用

→情報モラル教育の観点から、適切な情報発信や情報を見きわめる力を育成し、ICTを活用した学習活動を通して、生徒の思考力・表現力の充実を図る。すべての生徒の可能性を広げるという共通理解のもと、指導・評価・校務においてICTを活用し、指導力の向上に努める。